

はしご受診とセカンドオピニオン

「はしご受診」と「セカンドオピニオン」ちょっと似ていますが、全く違うものです。
はしご受診にはデメリットがある一方、セカンドオピニオンは、納得して医療を受けるために必要な患者の権利です。

はしご受診

「なんとなくお医者さんと相性がよくない」「処方してもらった薬をのんでもどうも効かないように感じる」など、理由はいくつもあるかもしれませんが、同じ症状で医療機関を転々としている場合は、それははしご受診といえます。なぜ、はしご受診はいけないのでしょうか。はしご受診にはデメリットが多いのです。

この受診のしかたがおすすめ！

今、受けている治療に不安があったら、不安の原因をお医者さんに伝えて話し合ってみましょう。不安が解消され信頼を築き、よい治療結果を生むことにつながっていくでしょう。

はしご受診のデメリット

医療費がかさむ

➡ 転院を繰り返すと
初診料・再診料だけでも2倍

	通常の場合	はしご受診の場合
1回目	初診料2,820円(+検査料等)	初診料2,820円(+検査料等)
2回目	再診料 720円	初診料2,820円(+検査料等)
3回目	再診料 720円	初診料2,820円(+検査料等)
合計	4,260円	8,460円

*初診料と再診料の合計額。検査料を加えるとその差はさらに大きくなります。

※窓口で支払う自己負担はこの金額の1～3割です。

※再診料は病院の規模により金額が異なります。

時間のムダ

➡ 病院を変えるたびに問診、検査をすれば、それだけ時間がかかる。

からだに負担がかかる

➡ 同じような検査がくり返される、薬が重複して処方されることも。

治療が中途半端になる

➡ どの薬が有効なのか治療方針が確立できない。

セカンドオピニオン

重い病気の場合、どうしたらよいか悩んでしまうものです。患者さんにとって最善の治療を選択するために、別のお医者さんの意見を聞くことがセカンドオピニオンです。目的は、患者さんが主治医とともに治療を選択するところにあります。したがって、セカンドオピニオンとはしご受診は全く違うものです。もちろん、セカンドオピニオンをとった結果、別のお医者さんの治療を受けるために医療機関を変えることはあります。

この受診のしかたがおすすめ！

重い病気や治療法が確立していない難病など診断や治療方針の説明を受けてもどうしたらよいか悩んでしまうもの。このようなときは、主治医に遠慮せず、セカンドオピニオンをとるといいでしょう。

セカンドオピニオンの手順

主治医に検査結果・画像などを提供してもらう

【 診療情報提供料5,000円で
保険適用（1～3割） 】



これを持って別のお医者さんに意見を聞きに行く

【 (注)保険適用外で全額自費の場合
がありますので事前に医療機関へご確認ください。 】